

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 保健学研究科

	組織目標	達成状況(成果)
	(下記3項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。)	
教 育	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学研究科が到達目標(ディプロマポリシー)に掲げている「研究能力」をもつコモディカル育成のため、入学者の資質評価を厳密に行い、個々の学生の能力と適性にに応じた研究指導を行う。 ・高度専門職業人の育成として行っている「がん専門看護師」、「医学物理士」の育成を引き続き行う。 ・医歯薬学総合研究科が開講している「医療統計学講義・演習」、「疫学講義」を保健学研究科の学生が履修でき、修了認定単位として認めるようにする。 ・学生、とくに社会人学生の自主学習支援、研究指導へのe-Learning教材とe-Learningシステムの活用拡大を図る。 ・平成24年度から助産師教育を大学院教育(博士前期課程)にすべく、概算要求に向けた準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者の資質評価を厳密に行った結果、数人の不合格者が出たが、入学生の学力レベルはあがったと思われる。また、平成23年度からは博士課程での研究の中間段階で公開発表会を行い、研究指導に反映させるようにした。 ・「がん専門看護師」、「医学物理士」教育を引き続き行った。 ・「医療統計学講義・演習」、「疫学講義」を履修できるよう周知したが、平成22年度については、物理的制約のため受講生がいなかった。このため、平成23年度からは、博士後期課程に「実践科学統計学特講」を開講し、博士前期課程の学生も履修できるようにした。 ・現役助産師のリカレント教育として行っている即戦力育成プログラム「妊娠中からの母子支援」では学外からe-learning教材が活用されており、博士後期課程の「インタープロフェッショナルワーク論」でも学生の討議と報告書作成にe-learningシステムを活用した。 ・平成22年度に計4回文部科学省(医学教育課、法人支援課)と協議を行った結果、博士前期課程に「助産学コース」をつくる計画がほぼ最終段階に至った。
	達成度:	4 ③ 2 1
研 究	<ul style="list-style-type: none"> ・ウーマン・テニユア・トラック教員制度を利用して女性教員を確保することにより、研究マンパワーの強化を目指す。 ・OMIC、理化学研究所との連携大学院構想のWGIに参画し、保健学科卒業生の進路拡大を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウーマン・テニユア・トラック教員制度で平成23年度から検査技術科学領域に女性教員1名を確保した。 ・OMIC、理化学研究所との連携大学院が平成23年度から移働することになり、保健学研究科の卒業生、学生も連携大学院へ入学可能になった。
	達成度:	④ 3 2 1
社 会 貢 献	<ul style="list-style-type: none"> ・現場助産師を対象にした「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムを引き続き行う。 ・岡山大学病院が行っている「看護師キャリア構築プラン」に引き続き参加し、看護師のキャリアアップを推進する。 ・「教育研究開発WG」を中心に、e-learningシステムを使って地域医療福祉機関の職員が行う研究を支えるための体制づくりを行う。 ・市民、高齢者を対象にした講座、講演会、公開講座を引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現役助産師22人を対象に即戦力育成プログラム「妊娠中からの母子支援」によるスキルアップ教育を行った。 ・平成23年3月1日に第2回評価委員会を開催し、教育プログラム開発、看護師の研修会、新人看護師研修会、海外研修などが予定どおり実施されたことを確認した。 ・個人レベルでは、個別に老人保健施設等における研究、論文指導を行ったが、「教育研究開発WG」として組織的支援はできなかった。 ・市民、高齢者を対象にした講座、講演会、公開講座はこれまでどおり行った。詳細は、平成23年度の「保健学研究科年報」にまとめる予定である。 ・入学者の資質評価を厳密に行った結果、数人の不合格者が出たが、入学生の学力レベルはあがったと思われる。また、平成23年度からは博士課程での研究の中間段階で公開発表会を行い、研究指導に反映させるようにした。 ・「がん専門看護師」、「医学物理士」教育を引き続き行った。
	達成度:	4 ③ 2 1
評 価 の 客 観 的 指 標 ・ 定 義	事 項	定 義 (抜 粋)
	学部入試倍率	評価年度の前年に実施した入試と評価年度に実施した入試の志願倍率 算出方法: 前期入試、後期入試、AO入試及び推薦入試毎及び各入試の合計により算出した「志願者÷募集人員(小数点3位を四捨五入)」の数値
	大学院充足率	評価年度と評価年度の翌年度の充足率 算出方法: 4月入学者の「入学定員÷入学者数(小数点3位を四捨五入)」の数値。
	留年・休学・退学者数	評価年度と評価年度の翌年度の留年・休学・退学者数 留年: 正規の在学年数を経過したにも関わらず卒業延期となっている者
	就職率	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
	科研費申請率、科研費採択率、採択金額	
	共同研究件数、受託研究件数、受入金額	評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数、受入金額
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。		

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。